



<立地と環境>

本古墳は、歩み山丘陵の北端が埋没する所に在って、荒城地区と広瀬地区の出会いである。現在国府小学校校庭となっている。近隣には、十王堂古墳が東北 400m に在り、北 150m に芦原古墳が在る。この地は国府町の中核である。

<調査の経緯>

明治 42 年の『飛州志』によると、こう峠口古墳及び広瀬古墳のことが広瀬窟として紹介されている。したがって 2 つの古墳は、明治 42 年以前に盗掘されていることが知られている。明治 28 年 7 月発行の『飛州』の広瀬亀塚発掘記事(岡村季(り)坪(へい))によると、明治 28 年 4 月、この墳墓を壊して小学校を建てたとある。明治 29 年の小学校の落成写真を見ると校舎の左側に一部古墳が残っているのが確認できる。

また、大正 7 年の運動場拡張工事で亀塚古墳は完全に破壊された。大正 7 年の土砂取除き作業当時の写真は次の通りである。

<遺構と遺物>

墳丘は失われて古墳の規模を詳しく調査することができないが、ただ 1 つ当時の古墳の大きさを知る資料として、明治 21 年の広瀬町村の野(の)取(とり)丈量帳(じょうりょうちょう)の測量図によれば東西で 73m、南北で 70m を推定することができる。

また、明治 28 年 7 月号の飛州の記事(岡村季坪、「岡村利平の事」)では墳墓の大きさを記述している。一部抜粋すると「墳墓の周囲 120 間(218.4m、直径 69.4m)、高さは 5 間(9.1m)、円形でアーチ形をしている。その形が亀の甲に似ているというので亀の字を用いたのであるが、瓶塚(かめづか)と書く一説もある。」

(略)

【文献】

柏木城谷 飛州 30 号「広瀬王塚考」 1895

岡村利平 飛州 31 号「広瀬亀塚発掘記事」 1896

広瀬町 広瀬町村野取丈量帳 1888

岡村利平 斐太温古志料「広瀬亀塚測量図」

春日井市 春日井シンポジウム 2005

国府町史刊行委員会編集・発行『国府町史 考古・指定文化財編』平成 19 年発行



0001_龟塚・看板



0002_龟塚・看板



0003_龟塚・看板



0004_龟塚・看板



0005_龟塚・看板



0006_龟塚・看板



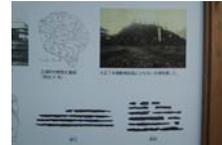
0007_龟塚・看板



0008_龟塚・看板



0009_龟塚・看板



0010_龟塚・看板



0011_龟塚・看板



0012_龟塚・看板



0013_龟塚・看板



0014_龟塚甲冑展示状況



0015_龟塚甲冑展示状況



0016_龟塚甲冑展示状況



0017_龟塚甲冑展示状況



0018_龟塚甲冑展示状況



0019_龟塚甲冑展示状況



0020_龟塚甲冑展示状況



0021_龟塚甲冑展示状況



0022_龟塚甲冑展示状況



0023_龟塚甲冑展示状況



0024_龟塚甲冑展示状況



0025_龟塚甲冑展示状況



0026_龟塚甲冑展示状況



0027_龟塚甲冑展示状況



0028_龟塚甲冑展示状況



0029_龟塚跡・国府小学校



0030_龟塚跡・国府小学校



0031_龟塚跡・国府小学校



0032_龟塚跡・国府小学校



0033_龟塚跡・国府小学校



0034_龟塚跡・国府小学校



0035_龟塚跡・国府小学校



0036_龟塚跡・国府小学校



0037_龟塚跡・国府小学校



0038_龟塚跡・国府小学校



0039_龟塚跡・国府小学校



0040_龟塚跡・国府小学校



0041_龟塚跡・国府小学校



0042_龟塚跡・国府小学校



0043_龟塚跡・国府小学校



0044_龟塚跡・国府小学校



0045_龟塚跡・国府小学校



0046_龟塚跡・国府小学校